

# 組織・企業内での IT プロジェクト再考

## IT バリューSTREAM構築にむけて

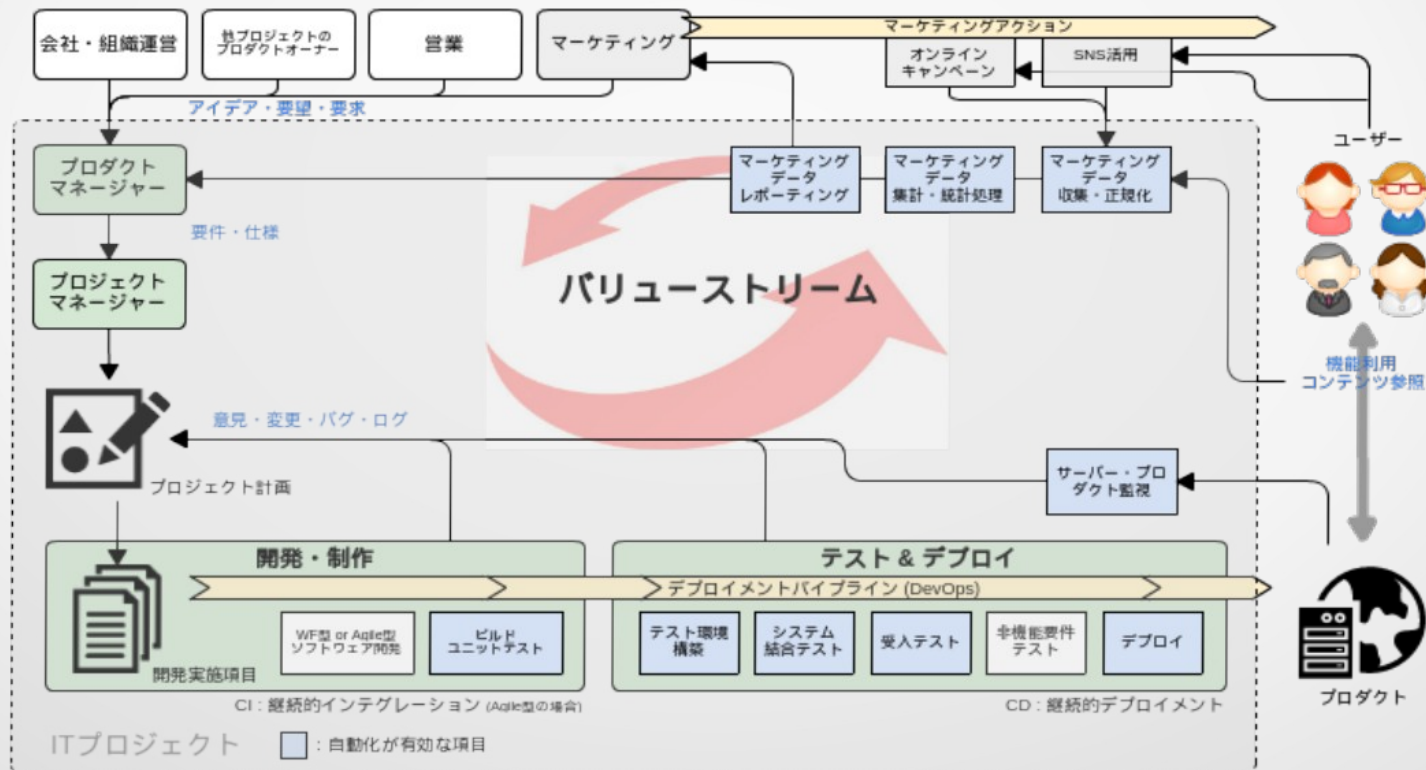
オフィス ORA

<http://www.office-ora.com/>  
Ver. 1.5



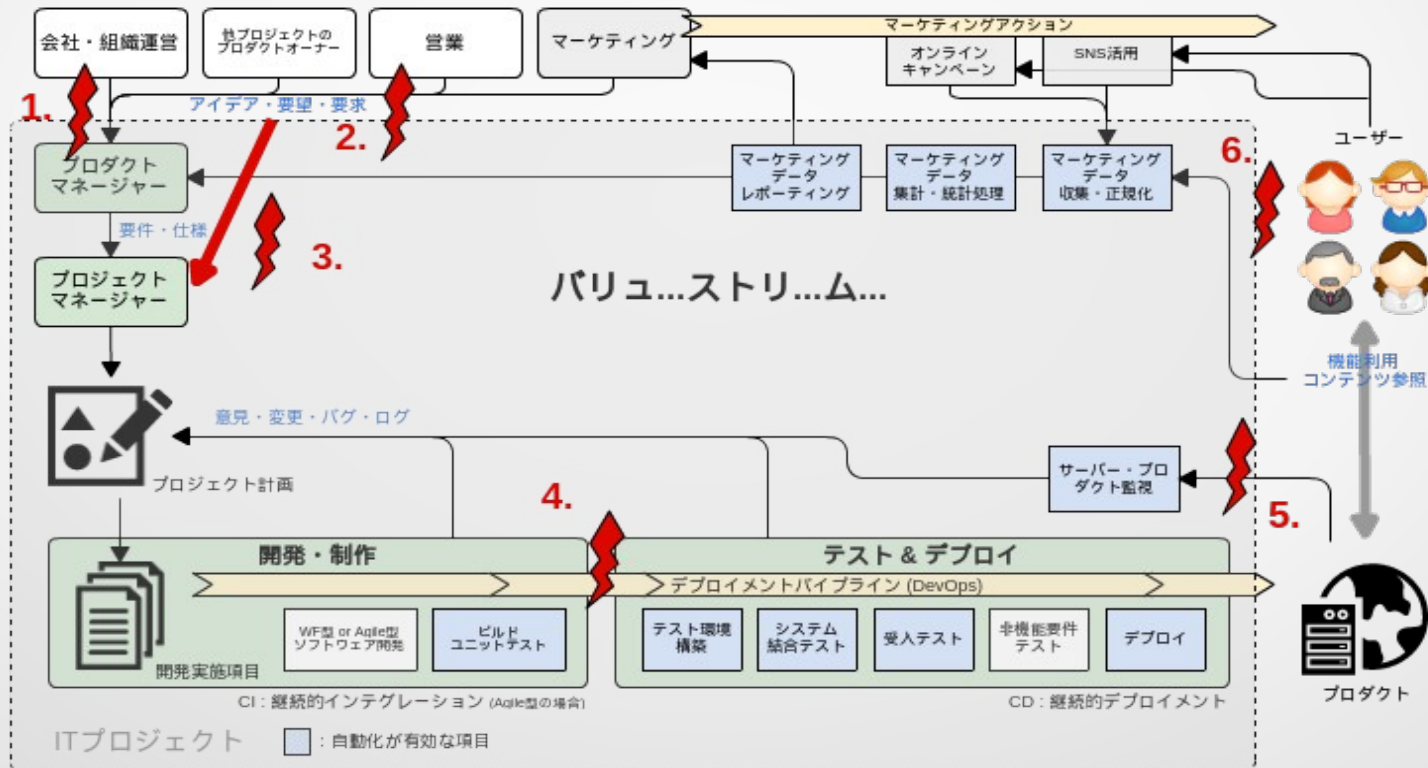
# ITプロジェクトの本来の意味

ITバリューSTREAMを生みだし、組織・企業に  
価値を生みだし続ける = ビジネス拡大 = 利益を生む  
という流れを作り出すことこそが本来の意味



# しかし ... バリューストリームを生み出せない6つの分断

組織の規模の大小に関わらず  
よく見受けられる6つの分断は ...  
(特に小規模組織では無条件に発生しがち)



## 現状をチェックしましょう。「分断」はありませんか？

### 分断 1/2/3 があるとする ...

- ビジネスサイドとの分断が、価値を生み出しつづけるというITプロジェクトの意味を根底から否定することに繋がっているかもしれません！
- ITプロジェクトに大きなボトルネックが存在しているかもしれません！

### 分断 4/5 があるとする ...

- 無駄が生じており、大きなコスト削減が可能かもしれません！
- プロダクトにクオリティの点で問題が潜んでいるかもしれません！

### 分断 6 があるとする ...

- プロダクトが「ひとりよがりなもの」になっているかもしれません！



「価値を生みだし続ける = ビジネス拡大 = 利益を生む」  
を妨げているかもしれません！



## 分断 その1: ビジネスとITプロジェクト

- 組織や会社とITプロジェクトの意思疎通が希薄
- ビジネスとしての目的がITプロジェクトに浸透せず、目的が「作ること」になってしまい「価値」を生みだし続けることからかけ離れてしまう

### 【オフィスORAの提案】

- 社会潮流が早いのはビジネス界もIT界も同じです  
それぞれの立場で潮流を追いかけつつ、その考察後に持つ意見やアイデアをビジネスサイドとITプロジェクトの間で共有し、市場価値や技術的価値を考慮してプロダクトの定義を行い、継続的に見直していきましょう
- 最低、月に1～2回のミーティングを実施しましょう



## 分断 その2：営業およびマーケティングとITプロジェクト

- それぞれ目的に対する役割およびアクション・成果の形が違うので「目的」が徐々にずれていってしまう
- アクション・成果の形が違うことが「価値」としてまとめられず全体に反映されない

### 【オフィス ORA の提案】

- これらの部署がそれぞれ連携していないことは「価値」を生み出すことにとって大きな弊害となります。  
成果物や現行のアクションや課題を持ち寄り、役割の垣根を越えてまとめていきましょう
- 常に目的がずれない為に頻繁にミーティングを行いましょう



## 分断 その3： プロダクトマネージャーとプロジェクトマネージャーのポジション

組織・会社や他部門からの要望や要求が、ITプロジェクトの中でしっかりと「定義」されずに以降の実施プロセスに投げられることで、ブレがあらゆるところで生じ、価値の創出につながらない

### 【オフィス ORA の提案】

- プロダクトマネージャー（プロダクト自体やその詳細内容を定義する）とプロジェクトマネージャー（ITプロセスの管理と実施）のポジションを明確にし区別しましょう
- プロダクトマネージャーとプロジェクトマネージャーは「兼任」されるべきではありません  
役割として別ですし、そもそも見ているベクトルが違うのです  
もし兼任されている場合は、人材を投入しましょう  
（時にマーケティングまで兼任しているケースも見受けられますが、これも避けなければいけません）



## 分断 その4: Dev (開発) と Ops (運用)

- プロダクトのリリース・修正・メンテナンス・機能拡張のコストが劇的に高くなり、継続的に価値を生み出す妨げになっている
- DevOps の各アクションがそれぞれ属人化しており、組織やチームやプロジェクトの柔軟性を妨げている

### 【オフィス ORA の提案】

- [大規模組織の場合] Dev (開発) と Ops (運用) の役割を見直し、自動化技術を導入し、コストがかかっている部分を可能な限り置き換えていきましょう
- [小規模組織の場合] Dev と Ops が兼任されているケースでも、それぞれに含まれる各ステップを省略しないようにしましょう。  
自動化技術を導入することで担当者の負担を減らしつつ、品質やプロダクトの意味を劣化させないことが大切です (特に省略されがちなテスト部分をしっかり実施しましょう)
- バージョン管理やチケット管理やジョブ管理においてツール導入し最大限効果を生むように運用しましょう  
例えば、あなたのプロジェクトではプロダクトの特定のバージョンの運用環境をいつでもどこでも再現できるようになっていますか？  
このことは、IT プロジェクトの Dev と Ops のコストを最大限にさげる努力がされているかどうかの指標になります。  
もし、これができていないならば、まだまだコスト削減の余地があるということです





## 分断 その5: プロダクトの運用状況

- プロダクトの運用状況をだれも知らず、最悪のケースとして問題発生を見つけるのが利用者といったことが起こる
- 運用状況を把握しておらず、新しい機能などを検討しても、実際に実装可能なのかどうか誰にもわからない(最悪のケースはわからないまま実装すること)

### 【オフィス ORA の提案】

IT プロジェクト、そしてその成果物であるプロダクトから大きな「価値」を生み出しつづけたいのであれば、状況把握は必須です  
オープンソース監視システムなどを活用し、運用担当者はそれを常にウォッチ・分析し、価値を生み出すためのフィードバックを IT プロジェクト全体に行いましょう



## 分断 その6：利用者からのフィードバックを受けられない

- 利用者からのフィードバックをデータ化および分析せず、「言葉」として受け取るだけになっていると素早く対応ができず「価値」を生み出しつづける中で「ボトルネック」になってしまう
- そもそも利用者からのフィードバックを受けようとしておらず「価値」を生み出しつづける仕組みとして欠陥がある

### 【オフィス ORA の提案】

- フィードバックはデータとして扱えるように工夫し、収集・正規化・集計・統計・分析を行きましょう
- 分析結果は IT プロジェクト全体で共有し「価値」を生みだし続ける種としましょう



# まずは自身の問題点を把握しましょう

オフィス ORA がお手伝いします。

オフィス ORA の「IT プロジェクト現状把握サポートサービス」のご利用をご検討ください

## IT プロジェクト現状把握サポートサービス

- **期間：**  
状況に合わせて問題点まとめに十分な期間を設定させていただきます
- **コスト：**  
期間と組織規模によってお見積もり致します  
なお、現状把握サポートが終了した後に問題点の改修をご依頼いただける場合は値引き可
- **アウトプット：**  
問題点をまとめてレポートいたします

# 問題点改修のコスト

多くの場合、問題は多角的に影響しあって存在するでしょう。  
問題改修にコストがかかるかどうかは、組織・会社全体で問題に立ち向かえるかどうかにかかっています。  
オフィス ORA は以下のような基本サービスを提供しています。  
「現状把握サポートサービス」でまとめられた内容に合わせてアレンジしてご提案いたします。  
その上でご利用をご検討ください。

## プロダクトマネジメントサービス

分断 1 ~ 3 に対応

- プロダクトマネジメント代行  
現行担当者がいない場合に有効です。将来このポジションにつける人材の発掘などもお手伝いします
- プロダクトマネジメントサポート  
現行のプロダクトマネージャーのサポートをします

## DevOps サービス

分断 4 に対応

- 構築  
DevOps（デプロイメントパイプライン）スキームの構築を実施します
- 運用サポート  
DevOps スキームの運用をプロジェクトマネージャーの補佐としてサポートします。初めての場合は、運用コーチングもいたします

## プロジェクトマネジメントサービス

分断 3 に対応

- プロジェクトマネジメント代行  
プロジェクトの運用をトータルにマネジメントします
- プロジェクトマネジメントサポート  
現行プロジェクトマネージャーのサポートおよびコーチングをいたします

## プロダクト監視サービス

分断 5 に対応

プロダクトの運用状況を監視し定期的にレポートいたします。

## マーケティングデータ利用サービス

分断 6 に対応

該当プロジェクトに合った形で、データ収集・正規化・集計・統計・レポートをスムーズに行うためのシステムを構築いたします。